

金融リテラシー入門

第1章：「人生の選択Ⅰ」

はじめに

本書で学ぶのは大学の1年生が多いだろう。高校の時は、ほとんどの高校生が自宅から学校に通っているが、大学生になり、自宅を離れ、ひとり暮らしや寮生活を始めるものも多い。そして、奨学金制度を利用したり、アルバイトをしたりと、これまで以上に金銭の管理 (Money management) が、重要となる。

そこで、本章では、高校卒業まで自分にかかったお金、大学受験にかかったお金の金額を知る。そして、大学生活時の生活費の収支について考える。さらに、大学卒業後の人生設計によって、今後の収入に差異が生じることについて理解する。

1. 大学受験にかかったお金はいくらか？

大学受験は、最近のあなたにかかった最近の費用のうちでもっとも大きなものだろう。推薦入学で、受験費用がわずかしかなかった人もいたであろうが、平均してどれくらいの費用がかかっただろうか？

また、図は、受験から入学までにかかった費用と大学の初年度入学金である。受験費用は、受験料のほか受験のための交通費・宿泊費なども含まれるが、自分はどれくらい受験費用がかかっただろうか

2. 大学の学費はいくらかかるか？

また、大学の初年度入学金は、国公立大学・私立大学により異なるが、私立大学では学部ごとに大きく異なる。この金額をすることがまず一歩である。

3. 大学生の家計

大学生になるとアルバイトなどの収入が増える一方、交通費、交際費などこれまでより支出が増えることが多い。自分の小遣いの収支はどうなっているだろう。家計の収入と消費の分類にはいくつかの方法があるが一つの例である。これまでこずかい帳をつけていた人もいたであろうが、パソコンのソフト、携帯アプリなど、手軽につけることができるので、挑戦してみるのもよいだろう。

I. 大学卒業後の進路の意思決定

あなたは、大学卒業後の進路についてどのように考えているだろうか？ 医者・薬剤師・教師など大学入学時から目指す職業や、大学に行くことで得られる資格を取得しそれに関連した職業につきたいなど明確な目標がある場合もあるが、多くの場合は、卒業後さまざまな選択肢があり、それは大学に入学する際、考えていた道を選ぶことも多いだろう。しかし、最終的に得られる選択肢は一つである。あなたが、卒業後どのような進路の選択肢があるかデシジョンツリーを使って考えてみよう。デシジョンツリーは、ある課題について、とりうる選択肢やとりうる選択肢や起こりうるシナリオすべてを樹形図の形で洗い出し、それぞれの選択肢を比較検討し、実際にとりうる選択肢を

決定する方法である。

進学するのであれば、日本の大学院に行くのか海外に行くのか、修士課程までか博士課程まで行くのか、そして修了後どのような道を選ぶのか。就職するのであれば、民間か、公務員か、総合職か専門職か、など様々な選択肢があるだろう。

生涯の資源は限られているため、自分が望むすべての商品を得ることはできない。これを希少性という。また、ある行動を選択することによって失われる、他の選択可能な行動のうち最大限利益を指す経済上の概念を機会費用という。

自分の進路によって、失われるものと得るもの、それは何かを考えながら、それぞれの場合の生涯賃金について調べてみよう。

生涯賃金（2010年）

学歴	男性	男性 (同一企業の場合)	女性	女性 (同一企業の場合)
中学卒	1億7,710万円	2億1,870万円	1億1,140万円	1億3,940万円
高校卒	1億9,520万円	2億4,490万円	1億2,620万円	1億8,090万円
高専・短大卒	2億410万円	2億3,980万円	1億6,010万円	2億40万円
大学・大学院卒	2億5,410万円	2億7,620万円	1億9,800万円	2億3,910万円

http://www.nenshoo.net/salary/contents/shougai_nenshoo.php

II. 家計のバランスシート

実際に社会人になった時には、自分の資産について知ることが必要であるそのためには現在の資産と負債の状況を書き出す家計のバランスシートの作成が必要である。

家計のバランスシート

資産		負債	
現金	万円	住宅ローン	万円
普通預金など	万円	自動車ローン	万円
定期性預金	万円	カードローン	万円
貯蓄型の保険	万円	奨学金	万円
株式	万円	その他	万円
債券	万円		
投資信託	万円		
その他の投資	万円		
商品	万円		
住宅	万円		
その他	万円		
資産合計	万円		

III. キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー (cash flow とは、現金の流れの意味で、主に、企業活動や財務活動に用いられる用語だが、家計でも収入と支出を差し引いて手元に残る資金の流れを記入したものをいう(本編 Appendix 参照)。

収支の分類は、以下のものを用いることとする。

家計の収支
・年間の収入(可処分所得)
収入金額ー(所得税+社会保険料+住民税)
・年間の支出
支出項目
基本生活費(食費・光熱費・通信費など)
住居関連費(住宅ローン・管理費・積立金・固定資産税など)
車両費(駐車場代・ガソリン代・自動車税など)
教育費(学校教育費・塾代・習い事など)
保険料(家族全員の保険料)
その他の支出(レジャー・交際費・冠婚葬祭など)

以上により年間の収入と消費を押さえよう。

次にキャッシュ・フローについて計画を立てる。ポイントとなるのは、ライフイベントとよばれるものである。学生のライフイベントといえば、例えば就職活動で、スーツ代、交通しなど 15 万円ほどかかるといわれる。

社会人になると、結婚、出産、教育、住宅購入、老後の生活費、介護費用などライフイベントによる出費が予想される。生涯どれくらいの費用が必要かの目安となり、実際には、20~30 年後を目安に作成するが、大学生の場合未知数であるため、ここでは、

10 年後の自分のいくつかの場合について試算する。

自らのライフプランについて考えてみることは、大学生の今の時期大切なことであろう。

主なライフイベントの係る費用の目安

マイカー購入	214 万円
結婚	484 万円
出産	42 万円
住宅購入 (新潟県の場合)	2,753 万円
子どもの教育	771 万円
子どもの結婚	268 万円

<https://www.daishi-bank.co.jp/myplan/plan.php>

*Homework 実施についての注意事項

人が生まれてから高校を卒業するまでにかかる費用を計算するワークである。(大学受験費用は含まない)。教育費は、家計において長期的な支出となる項目で、「学校でかかるお金」と「学校外でかかるお金」を含めたお金をいう。文部科学省では、「子供の学習費調査」を行っており、ここではその結果を示している。幼稚園・小学校・中学校・高等学校の公立私立別になっており、各々の場合について計算する。Homework に示した「学校種別子どもの学習費総額」は全国平均のものである。幼稚園ではなく、保育所に通った場合などは、各市町村の資料などから調べてみる。

また、ここに記しているのは、あくまで教育費であって、出産費用、食費、医療費、被服費、住居費、光熱費など他にも多くのお金がかかっていることを理解したい。